



平成29年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年2月14日

上場取引所 東

上場会社名 関東電化工業株式会社

コード番号 4047 URL <http://www.kantodenka.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 長谷川 淳一

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員人事総務部長

(氏名) 浦本 邦彦

TEL 03-3257-0371

四半期報告書提出予定日 平成29年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第3四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第3四半期	33,163	4.6	6,407	0.2	6,528	△1.8	4,408	△9.9
28年3月期第3四半期	31,700	16.3	6,394	151.3	6,646	144.3	4,893	89.6

(注)包括利益 29年3月期第3四半期 5,132百万円 (13.0%) 28年3月期第3四半期 4,543百万円 (32.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
29年3月期第3四半期	76.64	—
28年3月期第3四半期	85.06	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	%	百万円	%	%	円銭		
29年3月期第3四半期	55,761		30,552		52.9	512.91		
28年3月期	52,960		26,054		46.7	430.12		

(参考)自己資本 29年3月期第3四半期 29,504百万円 28年3月期 24,742百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
28年3月期	—	3.00	—	4.00	7.00
29年3月期	—	4.00	—		
29年3月期(予想)				5.00	9.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	46,000	7.0	8,600	△0.6	8,700	△0.8	5,850	△27.5	101.70

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期3Q	57,546,050 株	28年3月期	57,546,050 株
② 期末自己株式数	29年3月期3Q	22,470 株	28年3月期	21,248 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期3Q	57,524,444 株	28年3月期3Q	57,526,035 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、【添付資料】3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報.....	2
(1) 経営成績に関する説明.....	2
(2) 財政状態に関する説明.....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明.....	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項.....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動.....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用.....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示.....	3
(4) 追加情報.....	3
3. 四半期連結財務諸表.....	4
(1) 四半期連結貸借対照表.....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書.....	6
(四半期連結損益計算書).....	6
(四半期連結包括利益計算書).....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項.....	8
(継続企業の前提に関する注記).....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記).....	8
(セグメント情報等).....	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済政策を背景に、企業収益や雇用情勢の改善が見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。一方、海外においては、中国ならびにアジア新興国経済の減速のほか、米国新政権の政策や英国のEU離脱が経済に与える影響も懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いています。

このようななか、当社グループの当第3四半期連結累計期間の売上高は、精密化学品事業部門が、販売数量の増加と価格修正効果により増収となったため、331億63百万円と前年同期に比べ14億63百万円、4.6%の増加となりました。損益につきましては、経常利益は65億28百万円と前年同期に比べ1億18百万円、1.8%の減少となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は44億08百万円と前年同期に比べ4億84百万円、9.9%の減少となりました。

セグメント別の概況は、次のとおりであります。

① 基礎化学品事業部門

か性ソーダは、販売数量の減少と販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。塩酸は、販売数量の減少により、前年同期に並べ減収となりました。

塩素系有機製品につきましては、トリクロールエチレンおよびパークロールエチレンは、販売数量の減少と販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、基礎化学品事業部門の売上高は、43億26百万円となり、前年同期に比べ4億52百万円、9.5%の減少となりました。営業損益につきましては、原価改善効果により、営業利益1億47百万円となり、前年同期に比べ41百万円、38.8%の増加となりました。

② 精密化学品事業部門

半導体・液晶用特殊ガス類につきましては、三フッ化窒素は販売数量の減少と販売価格の低下により、前年同期に比べ減収となりました。六フッ化タングステン、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。電池材料の六フッ化リン酸リチウムは、販売数量の増加と価格修正効果により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、精密化学品事業部門の売上高は、238億76百万円となり、前年同期に比べ15億89百万円、7.1%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益56億34百万円となり、前年同期に比べ1億81百万円、3.1%の減少となりました。

③ 鉄系事業部門

複写機・プリンターの現像剤用であるキャリアーは、販売数量の増加により、前年同期に比べ増収となりました。鉄酸化物は、着色剤の販売増加により、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、鉄系事業部門の売上高は、19億67百万円となり、前年同期に比べ2億40百万円、13.9%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益3億81百万円となり、前年同期に比べ54百万円、16.7%の増加となりました。

④ 商事事業部門

商事事業につきましては、化学工業薬品の販売減少により、前年同期に比べ減収となりました。

以上の結果、商事事業部門の売上高は、15億12百万円となり、前年同期に比べ1億65百万円、9.9%の減少となりました。営業損益につきましては、営業利益1億17百万円となり、前年同期に比べ11百万円、9.0%の減少となりました。

⑤ 設備事業部門

化学設備プラントおよび一般産業用プラント建設の売上高は、前年同期に比べ増収となりました。

以上の結果、設備事業部門の売上高は、14億81百万円となり、前年同期に比べ2億51百万円、20.5%の増加となりました。営業損益につきましては、営業利益3億34百万円となり、前年同期に比べ3億00百万円、863.2%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、現金及び預金が減少した一方、有形固定資産や投資有価証券、受取手形及び売掛金、棚卸資産が増加したことなどから、前連結会計年度末に比べ28億01百万円増加し、557億61百万円となりました。負債は、支払手形及び買掛金や流動負債のその他が増加した一方、借入金や未払法人税等が減少したことなどから16億97百万円減少し、252億08百万円となりました。純資産は、為替換算調整勘定や非支配株主持分が減少した一方、利益剰余金やその他有価証券評価差額金が増加したことなどから44億98百万円増加し、305億52百万円となりました。自己資本比率は、前連結会計年度末の46.7%から52.9%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の通期業績予想につきましては、平成28年11月14日付にて公表しました業績予想を修正しております。あわせて、配当予想も修正しております。詳しくは、別途公表いたしました「業績予想および配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用につきましては、当第3四半期連結会計期間を含む当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によって計算しております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(4) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当第1四半期連結会計期間から適用しております。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	13,166	8,885
受取手形及び売掛金	11,084	12,307
商品及び製品	2,208	2,396
仕掛品	2,182	3,268
原材料及び貯蔵品	1,689	1,735
その他	1,698	1,699
貸倒引当金	△16	△16
流動資産合計	32,013	30,276
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,429	5,495
機械装置及び運搬具（純額）	4,388	6,106
その他（純額）	4,032	5,506
有形固定資産合計	13,850	17,109
無形固定資産	293	376
投資その他の資産		
投資有価証券	5,587	7,011
その他	1,225	993
貸倒引当金	△9	△5
投資その他の資産合計	6,803	7,999
固定資産合計	20,947	25,485
資産合計	52,960	55,761

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,926	6,790
短期借入金	4,271	4,731
1年内返済予定の長期借入金	4,529	3,794
未払法人税等	2,054	1,127
役員賞与引当金	80	48
その他	2,647	4,121
流動負債合計	19,509	20,613
固定負債		
長期借入金	5,538	2,738
役員退職慰労引当金	104	111
退職給付に係る負債	1,496	1,594
その他	257	151
固定負債合計	7,396	4,595
負債合計	26,906	25,208
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,877	2,877
資本剰余金	1,614	1,816
利益剰余金	18,943	22,892
自己株式	△10	△12
株主資本合計	23,424	27,573
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,233	2,177
為替換算調整勘定	206	△167
退職給付に係る調整累計額	△122	△78
その他の包括利益累計額合計	1,317	1,931
非支配株主持分	1,311	1,048
純資産合計	26,054	30,552
負債純資産合計	52,960	55,761

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	31,700	33,163
売上原価	20,711	21,872
売上総利益	10,988	11,291
販売費及び一般管理費	4,593	4,884
営業利益	6,394	6,407
営業外収益		
受取利息	17	9
受取配当金	125	139
保険解約返戻金	99	—
試作品等売却代	80	81
為替差益	74	—
その他	92	92
営業外収益合計	489	323
営業外費用		
支払利息	186	119
為替差損	—	54
その他	51	28
営業外費用合計	237	202
経常利益	6,646	6,528
特別損失		
固定資産除却損	66	118
減損損失	20	—
特別損失合計	87	118
税金等調整前四半期純利益	6,559	6,409
法人税等	1,570	1,903
四半期純利益	4,988	4,505
非支配株主に帰属する四半期純利益	95	97
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,893	4,408

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	4,988	4,505
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△257	988
為替換算調整勘定	△271	△405
退職給付に係る調整額	83	44
その他の包括利益合計	△445	627
四半期包括利益	4,543	5,132
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,500	5,022
非支配株主に係る四半期包括利益	42	110

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,779	22,286	1,727	1,677	1,229	31,700	—	31,700
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	854	150	57	2,934	856	4,853	△4,853	—
計	5,633	22,437	1,784	4,612	2,086	36,553	△4,853	31,700
セグメント利益	106	5,815	327	129	34	6,413	△18	6,394

(注) 1. セグメント利益の調整額△18百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「精密化学品事業」において減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においては20百万円であります。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	基礎化学品 事業	精密化学品 事業	鉄系事業	商事事業	設備事業	計		
売上高								
(1) 外部顧客への売上高	4,326	23,876	1,967	1,512	1,481	33,163	—	33,163
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	820	96	71	2,644	2,077	5,710	△5,710	—
計	5,147	23,972	2,039	4,156	3,558	38,874	△5,710	33,163
セグメント利益	147	5,634	381	117	334	6,616	△209	6,407

(注) 1. セグメント利益の調整額△209百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。